Vcc 通信

ＮＨＫ金沢ビデオカメラクラブ

２００８年２月号

通巻２７３

****

【VCC 新年会報告】

１月２６日（土）　午後２時～４時

KKR ホテル金沢

２００８年の年頭を飾るNHK 金沢 VCC 恒例の新年会は５８名もの方々が一堂に会し盛大に行われました。何と当日、午前４時４３分能登で地震発生！「震度５弱」と聞き、能登の会員の皆さん方や、NHK 関係者の方々の出席が危ぶまれ、更に冬将軍の到来で当日の天候も心配な状況でしたが予定されていた皆さんは定刻どおり会場においでになり、事務局もほっと一安心。

NHK 金沢放送局からは、村瀬陽太郎局長、宮津寿人チーフカメラマン、山岸寿一チーフディレクター、二見和男アナウンサーそれにキャスターの亀井和恵さん、黒崎　瞳さん、酒井菜穂子さん、元キャスターの二見敦子さんが参加、またお隣りの富山県からは NHK 富山ビデオクラブ会長の小林治之さんと滝川時英さんのお二人がお忙しい中駆けつけて下さいました。

開会に先立ち、参加者全員で記念撮影を行い、午後２時、会員の出島啓雄さんによる謡“高砂”が朗々と響き渡り、会場は一気に華やかな雰囲気に包まれました。

新年会は元 NHK アナウンサー古村駿二さんの流暢な中にも重厚な司会のもとで進められ、まず VCC 藤平田友市会長から「年頭を飾る VCC 新年会にこのように多くの皆さん方にお集まり頂いた事に感謝します」というお礼の言葉と「今年、我が石川県で開催される北信越ビデオクラブ交流会を是非成功させましょう。又ビデオを通じて地域に貢献していく VCC にしましょう！」という決意の言葉がありました。

NHK 金沢放送局の村瀬局長からは「金沢放送局は常に、“放送局”としての仕事をしているのか、ということを念頭においてやっていきたいと考えている。今朝の地震の対応についても局のスタッフはいち早く放送体制をとっており今後もこのようにやっていきたい」と抱負を述べられ「皆さんはビデオというとても良い趣味を持っておられる。今年もぜひビデオ撮影に励まれ映像を NHK に送ってくださるよう期待しています」と力強い激励の挨拶を頂き、宮津チーフカメラマンの音頭で“乾杯”が行われ、和気あいあいとした懇親の場となりました。

懇親会では、お招きした富山ビデオクラブ会長の小林さんが「自分たちは日頃から VCC を兄貴分として見てきており見習って頑張ってきている。これからもよろしくお願いします」とのお話があり、NHK の山岸チーフディレクターからは「自分は“編集”の仕事をやっているが、もし、VCC の例会で話をする機会があれば、編集についてのお話をしたい」と嬉しくも素晴らしいお話がありました。

勤務の都合で参加できなかった宮崎浩輔アナウンサーからは「“ビデオ便り”の放送の中で、映像を見たあとすぐ“感想”を言うようにと指示があります。毎回、自分らしい感想を言うのにとても苦労していますが、しかし皆さん！これからは“感想”に注目してこれからもビデオ便りを見て下さい」とのメッセージが届き、会場では「それなら自分も撮った映像を NHK に送ろうかな」という雰囲気が漂いました。

この後は、それぞれのテーブルでビデオ談義が繰り広げられ、熱っぽく話し込む姿がここかしこに見られました。

一息いれたところで本日のアトラクションの開始です。会員の片岡重幸さんの歌謡舞踊“旅姿三人男”にやんやの大喝采！

ついで、VCC としては初めての試み、今回のメーンイベント“ビンゴゲーム”の開始です。賞品の購入から司会までの労をとられた事務局長の小林陽治さん、大奮闘です！会場では「やったー！ザンネン！」の声と笑いが飛び交い、大いに沸き、とても楽しい雰囲気の中で進められました。ビンゴの景品での特別賞の中に、会員の中山　稔さんが昨年の「石川県発明工夫展」に出品、見事「最優秀賞を受賞」されたという“折りたたみ式テーブル”があり参加者の興味がより一層高まったビンゴゲームとなり、初めての試みも大成功でした。

引き続き、昨年７月の例会「歌謡ビデオ撮影会」でモデルをして頂いた谷口悦子さんからは「撮影会に呼んでもらえてとても嬉しかった。良い記念になりました。これからもよろしくお願いします」と挨拶がありました。

富山ビデオクラブの滝川時英さんからは毎年富山市で開催している“チンドンまつり”についての熱心な PR がありました。

私達 VCC が日頃から“ビデオ便り”でお世話になっている亀井キャスターからは「皆さんの映像に込められた想いをどのようにすれば伝えられるのか、悩みながら編集をしています。これからも皆さんの思いのこもった作品を両手を広げて待っています」と力強くお話されました。

お昼の放送“かがのとしゅんしゅん便”でビデオ便りを担当している酒井キャスター、黒崎キャスターは「自分たちは直接撮影場所に行くわけではありませんが、皆さんから届いた映像を通して楽しませてもらっています。これからも作品を待っています」と話され、会場は一段と盛り上がりました。

更に、元金沢放送局キャスターの二見敦子さんが登場し「久しぶりに VCC の新年会に参加しましたが、以前に比べて明るさが増し、また歌あり踊りありとパワーアップしていると感じました。ビデオ便りも楽しみに見ています」と話され、懐かしい言葉に温かい拍手が沸き、会場は和やかな雰囲気につつまました。

そして全国にも例がないと自画自賛するクラブ歌“VCC 賛歌”の披露です。役員だけでなく富山、更にキャスター陣も加わっての大合唱です。会場の会員も一緒に歌い上げました。初めて聞く会員もいて“いいぞ！日本一！”の掛け声に皆いい気持ち。

たいへん盛り上がった中で会は進み、NHK 金沢放送局の二見アナウンサーの音頭で“万歳三唱”のあと、富山ビデオクラブの小林治之会長の返礼の万歳、そして副会長の新田さんの御礼の言葉で今年の新年会は余韻たっぷり大盛会のうちに幕を閉じました。

会員の皆様のご協力により、盛大な新年会を催すことが出来ました。大いに語り、飲み、笑い、実に有意義な新年会だったと思っています。今年もＮＨＫ金沢放送局と緊密な連携関係を保ちながらの新年の門出にふさわしい我らがＶＣＣの新年会！全国の仲間とともに「ビデオカメラ」を通して、より交流を深めたいと決意を新たにした次第です。

事情で参加できなかった方は本当に残念でした。でも、これからの月一回の「VCC の定例会」で大いにビデオ談義をして楽しく過ごす一年としたいものです。

ビデオ仲間に愉しい新年会でした、とご報告すると同時に、来年は是非！とお呼びかけをしておきます。今年一年どうか宜しくお願い申し上げます。

【２月例会案内】

２月例会はNHKニュースディレクターとして活躍中の山岸寿一（やまぎし・ひさかず）さんを囲んでお話を聞きます。“映像編集”のお話をじっくりと伺いましょう。

日時：２月１７日（日）

午後１時～４時まで

会場：NHK 金沢放送局　３階会議室

内　容：◇講師：ＮＨＫディレクター

山岸　寿一さんを迎えて

“映像編集あれこれ”

◇自由作品鑑賞

作品の長さは、原則として３分くらいです。必ず頭出しをしてください。山岸さんの辛口の講評を頂きながら、ご一緒に自由な討論をしましょう。

【２月例会担当】は、
小林、古村、小屋、小山さん

また、３月１６日（日）は総会です。

【会　員　の　広　場　】
“楽しみながらビデオ作り”

後藤　正

未だテレビが無い頃に私が始めて「８ミリ映像」に出会ったのは昭和３０年代の頃だったと思います。

友人が「８ミリ映写機」を持っていたので、それを借りて撮影し、それを後で見た時にはとても感動し大いに興味を持ちました。

その後“ビデオカメラ”が世に出た時は直ぐに購入し撮りまくりました。勤めていた会社が「ビデオカラオケの販売」を始めたので“バック映像”などを作ったりして映像の勉強をしていました。

その後、旧押水町（現：宝達志水町）に引越しをして、この町に「ビデオクラブ」が有ったので入会し会員の皆さんと映像の勉強をしながら、地元の小学校の児童に映画製作を教えたり、町の歴史や色々な行事などのビデオ制作を楽しみながら行っております。

VCCにも入会させて戴き会員の方々の作品を見て勉強している次第です。

『ビデオ徒然（つれづれ）』
＝設定を変えて写してみよう＝

皆さんは、ビデオカメラを自動でなく手動で使うのは、フォーカスか明るさの調整だけだと思います。しかしカメラには、この他に沢山の自分好みの“設定に変える”仕掛けが付いています。

今回は、私が使っている SONY の画質調整についてお話します。少し前の TRV-950 等は「カスタムプリセットボタン（液晶パネルを開いた所にある）」を押してセット画面を出します。

最近の HDV カメラは、メニュー画面のカメラ設定の中にある「シャープネス」「カメラ色のこさ」「WB シフト」を調整して好みの画質にします。「カスタムプリセット」でも同じ項目を必ずカメラの液晶でなくて「外部モニター」を使って調整して下さい。

なお、調整前には撮影時と同じ光源状況下でホワイトバランスを“手動で合わせて”おいて下さい。オートロックも外して“マニュアル設定”にします。

この“設定を変えて”威力を発揮するのは、結婚式やパーティなどの「室内撮影」です。上手に調整すれば、これが家庭用のカメラかと驚くような画質になります。勿論事前にテスト撮影をして自信を深めた上で自己責任でもってお試し下さい。

カメラはソニーに限らず、パナソニック、キャノン、ビクターにも「メニュー」から画質を好みの設定にする仕掛けが付いています。取扱説明書をご覧になってお試し下さい。　（Ｙ・Ｋ生）

ＶＣＣビデオ講座――Ｎｏ．２０
ビデオづくり「イメトレ」（１）

いつでも何処でもｅｘｅｃｉｓｅ

ビデオづくりのトレーニングは手元にカメラや編集機材がなくても、何時でも誰でも何処でもできるものです。「イメトレ」つまり“イメージトレーニング”です。

ＶＣＣ例会に出席して他人の作品を見せてもらう時も、作者の作り方に共感したり、逆に自分ならこうするのにという思考がはたらくはずであり、これも知らず知らずのうちに脳がトレーニングされているはずです。

しかし例会は月に１回あるかなしで、何時でも何処でもというわけにはいきません。

頻繁に繰り返し“継続練習”することが、技能向上につながることはすべての趣味に関して言えることです。

ビデオづくりのように、機材や場所などの条件が制約される場合は、実練習を日常茶飯事というわけにはいきません。

そこで機材がなくてもビデオづくりの“イメージトレーニング”にトライするのも一考であると思います。

何時でもカメラワークの「イメトレ」

イベントにカメラを持参される方もおいでると思いますが、プライベートの時間ならまだしも、ビジネスではなかなか持参できなく、持参しても使用に躊躇するのではないでしょうか。
こんなときは「イメトレ」の出番です。

例えば、ＶＣＣ例会を例にするなら、カメラを持っていなくても、次々と頭のなかで撮影するのです。

ツカツカと前に出て行き、参加者の前方からロング、フィックスまたは早パンで撮る。前で話している人。次は・・・次は・・・と自分なりのカメラワークを思い浮かべて組み立てる。インサートカット（編集段階で捨てるものもある）も見逃さない。

発言者があれば、すぐその近くへ移動、アングルを決めて音声もバッチリ撮り、その時聞いている人も見逃さない。つまり「対話軸」も想定して撮り込んでおく。

“イメージトレーニング撮影”では、何故か発言者の言葉がいつまでも残るものです。自分のイメージ動作と

関連付けて真剣に発言を聞いているからでしょうか。
と、こんな事を頭の中で巡らしていると例会も作品鑑賞とあわせて倍時間分の勉強になるのではと思います。
これからイベントや会合、旅行中などあらゆる場面でイメージトレーニングで撮影法を習得してみましょう。

●チーフカメラマンの呟き（最終回）

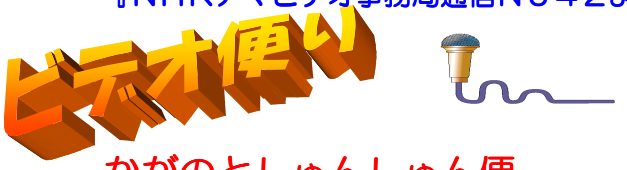
人々の思いと映像

アマチュアビデオ事務局　山下伸一郎

３０数年、ニュースカメラマンをやってきて思うこと。

結局、ファインダーの向こうに追い続けたのは“人の思い、人の生きざま、人の喜び、人の悲しみ”だったと思います。
映像の良し悪しではなく、自分が「映像表現者、映像取材者」として、被写体になった人の思いを、どのように受け止め、何を感じたのか、それが結果として映像に“結像”したのでしょう。
私の場合は映像の中でも「報道・ニュース」という限られたジャンルの中で仕事をしてきましたが、その中に多くの“人の思い”を感じてきました。
新日本紀行では、自分たちの「故郷」を象徴する「光のピラミッド」を支える“人々の思いとその暮らし”を描き、NHK 特集では、共産主義という政治状況が大きく崩れて生活の術を失った人々が、極寒のモスクワの町角に佇む姿を描きながら新しい“何か”を捜し求める“人々の思い”を伝えてきました。
そうした番組ばかりでなく、一般のニュースの中でも“人々の思い”こそが『映像の本質』なのです。
上九一色村のオーム真理教のサティアンでは、サリンで命を落とした“多くの人々の思い”“遺族の思い”を思いながら取材を続けました。
交通事故現場に奉げられた花束や、議会の会議の中での「論争」にも“人の思い”は滲み出ています。そんな様々な“人の思い”を映像で描き、伝える事を「仕事」としてきました。
そして映像で“人の思い”を描く事は、プロもアマも有りません。カメラを手にした貴方が目の前にいる“人の思い”をどのように受け止め、何を感じたのか、その結果が『貴方の映像』として“結像”するのです。
それは上手下手ではなく「貴方の感性」そのものです。ですから映像表現、映像取材にはセオリーはありません。自分が感じた通りに撮れば良いのです。
事実、ビデオクラブでの例会指導の席では、頻繁に“人の思い”が滲み出る映像に出会います。そうした「思い」が空回りしているケースも見られますが、そうした「思い」を持ち続けながら映像作りを続けて行くからこそ、必ず人の心を打つ作品が出来ます。
繰り返して申しますが、映像作りはテクニックではありません。被写体になった“人の思い”をどのように受け止めるか、そうした**「感性」こそが『映像作りの原点』**だと思います。是非これからも豊かなビデオライフを楽しんでください。
長い間、私の拙い文章でのアドバイスをお読み頂き有難うございました。私、山下の健康上の事情で、今回を以って「チーフカメラマンの呟き」を終了させていただきます。今後の皆さまのご活躍をお祈りいたします。

『NHKアマビデオ事務局通信Ｎｏ４２より』



かがのとしゅんしゅん便

放送日	タイトル	撮影者
１／　８	本折日吉神社大しめ縄奉納	高橋兵三郎
	和倉温泉七福神めぐり	山本忠嗣
１／２２	福寿草松任芽展	島崎四郎
	新春小倉風小品展	藤平田友市
１／２９	昔の遊びや食べ物で子供のお正月	岡野重和

ビデオ便り担当　　亀井　和恵さん
連絡先　　０７６－２６４－７０３２

【編集後記】

新しい年、平成２０年のスタートは、VCC の新年会！５８名の参加でしたが皆様は如何でしたでしょうか。
２月例会では、NHK から山岸ディレクターが“映像編集”について熱く語っていただきます。乞う！ご期待です。またまだ寒い日が続きますが体調に充分お気を付け下さい。　【事務局：小林陽治】

********** 事　務　局 **********

ＮＨＫ金沢ビデオカメラクラブ事務局（VCC）
〒920-8644　金沢市大手町 14－1（金沢放送局内）
小屋忠男 携帯電話　（090）7746-9608
tadao@nsknet.or.jp（小屋メールアドレス）

◆ＶＣＣのホームページとブログ

Ｋ－ＶＣＣのホームページには会員作品（動画）を始め各種資料を掲載しています。
http://k-vcc.web.infoseek.co.jp/

◆ＶＣＣアーカイブス　（過去の会員作品集）

ＶＣＣアーカイブスのホームページを開設しています。**作品**をお寄せ下さい。ＤＶテープにダビングして小屋さん迄お送りください。パスワードが要りますので明田吉憲さん迄メールして下さい。
http://www3.ocn.ne.jp/~aurora-2/kanazawa/vcc.html